

IWA 世界水大会 2008 参加報告

京都大学大学院地球環境学堂

(渡航時所属 京都大学大学院工学研究科附属流域研総合環境質研究センター)

原田英典

1. 参加学会名称と学会概要

・学会の名称

IWA World Water Congress and Exhibition 2008 (国際水協会 世界水大会 2008)

・学会概要

本学会は隔年で開かれ、研究者のみならず、政府関係者、企業、NGO、コンサルタント、国際機関などの多様な参加者が参加する。水に関連する幅広い環境問題を総合的に扱い、水を扱う学会としては世界でも最大級の学会である。本年度は、IWA (国際水協会、URL : www.iwahq.org) および International Association of Water Supply Companies in the Donube River Catchment Area (URL : www.iawd.at) により主催され、参加者はおよそ 3000 人であった。ウィーン市の後援を受けると共に、スポンサーは、シーメンス、スエズ、ヴェオリアウォーターおよび ITT といった世界最大級の水メーカーを含む。参加者の発表の主題であるトイレ排水および液状廃棄物である汚泥の管理、そして途上国における衛生改善は本学会の主要なテーマの一つであった。多様な発表が行われる本学会には、世界中の関連研究に取り組む研究者が集まるため、同分野の研究者同士の情報交換・交流のための重要な機会でもあった。

2. 開催場所及び開催期間

2008 年 9 月 7 日～12 日の期間にオーストリア・ウィーンの Austria Center Vienna にて開催された。

3. 参加学会全体の発表概要

学会は 9 つの基調講演と共に、16 の並行したセッションでの個別研究の発表、450 近くのポスター発表、29 種の専門家ミーティング、さらに企業等による展示会により構成された。発表内容は極めて多岐にわたるが、「排水処理」セッション、「浄水処理」セッション、「健康と環境」セッション、「水資源・河川流域管理」セッション、「水サービスの管理・計画」セッション、「分野横断テーマ」セッション、「水システムの設計・運転」セッション、「温暖化影響への適応」セッション、などにより構成された。本参加者による発表は、「途上国における水・衛生の科学および実践」セッションの中の、「土壌国における衛生に関する新たな挑戦」サブセッションにて行われた。その他、本研究関連としては、「排水処理」セッション中の「汚泥・有機系廃棄物管理」サブセッションなどが挙げられる。また、本学会中で、Global Atlas of Excreta, Wastewater Sludge, and Biosolids Management (Grater Moncton Sewerage Commission および UN-HABITAT) が正式発表されたことも特筆事項として挙げられる。

4. 参加者の発表内容と質疑応答の感想

参加者の発表内容は、下水道がいまだ整備されていない途上国都市域において、既存の衛生設備の改善に着目した暫定的で緊急の衛生改善策を提案することを研究目的にしたものである。ベ

トナム首都ハノイ市での綿密なフィールドワークに基づき、腐敗槽の汚泥引抜による槽の機能改善の重要性を実証的に示すと共に、腐敗槽管理状態と処理水質の関係の調査から、ハノイ市の腐敗槽は年1回の汚泥引抜の実施により、汚濁負荷(COD_{Cr})を72.8%削減できることを示した。以上より、途上国都市における汚泥引抜が極めて重要であり、その実行により腐敗槽汚濁負荷を大幅に低減できることが示した。

以上の発表に対し、出席者より腐敗槽の管理の詳細についての質問、腐敗槽改善効果の定量化方法の詳細についての質問とともに、インドネシアにおける腐敗槽管理が劣悪な状態にあることの報告、アフリカにおける腐敗層汚泥引き抜き時の非衛生的な作業環境などについての報告などがなされた。また、参加者にはアフリカからの参加者が目立ち、セッション終了後の参加者との議論では、衛生状態がとくに劣悪なアフリカでいかなる手段が現実的に有効か、などの観点から議論がなされた。

5. 当該学会の次期開催の情報(期日、場所、URL)

次回の当該学会は、2010年9月19日から24日にカナダのモントリオールで開催予定である。学会情報に関するURLは以下の通り(<http://www.iwa2010montreal.org/>)。

最後に

平成20年度廃棄物学会研究支援事業(若手渡航助成)の支援による渡航により、大変貴重な場での成果発表がかなうと共に、多くの有意義な情報を得ることができました。この場を借りて、感謝の意を表させていただきます。

【記入上の注意】

- ・ タイトル，構成は基本的に自由ですが，概ね上記のフォーマットのような形で作成して下さい。
- ・ 文字数はタイトル等も含めて **2000** 字程度として下さい。
- ・ 3. の「参加学会全体の発表概要」に関しては，学会全体としてどのような発表があったかを紹介するつもりで記述して下さい。
- ・ 個人の発表内容に関しては，参加者がどのような発表を行ったのか，及び質疑等を通して得られたことは何かといった観点から記述して下さい。
- ・ 報告の内容は「渡航助成対象者からの学会への情報・成果の還元を重視した場合，個々の発表内容よりも，他の学会員がその学会に参加しようとした際に有用となる情報を，その学会に参加した助成対象者から提供されることの方が，意義がある」という考えから，読者に学会の様子が伝わるように注力して下さい。
- ・ 一昨年度の助成対象者の学会報告が，学会誌 18 巻 6 号に掲載されていますので，参考にして下さい。

(注)

- ・ 図，表など，他の発表者のものを掲載する場合は著作権などの問題から，必ず引用文献名を明記するようにして下さい。